

[資料]

再発乳がん患者のがんと共に生きることに关するニーズ

柴田 純子¹ 佐藤まゆみ¹ 増島麻里子¹ 菅原 聡美²
 竹山富美子² 金澤 薫² 佐藤 順子² 黄野 麻子²
 松本ゆり子² 小西美ゆき² 大野 朋加² 畔蒜さとみ²
 吉田 千文² 長嶋 健² 宮澤 幸正²
 阿部 恭子³ 鈴木 正人⁴ 矢形 寛⁵

Needs for Living of Patients with Recurrent Breast Cancer

Junko SHIBATA¹, Mayumi SATO¹, Mariko MASUJIMA¹, Satomi SUGAWARA²
 Fumiko TAKEYAMA², Kaoru KANAZAWA², Junko SATO², Asako KONO²
 Yuriko MATSUMOTO², Miyuki KONISHI², Tomoka ONO², Satomi ABIRU²
 Chifumi YOSHIDA², Takeshi NAGASHIMA², Yukimasa MIYAZAWA²
 Kyoko ABE³, Masato SUZUKI⁴, Hiroshi YAGATA⁵

要 旨

再発乳がん患者ががんと共に自分らしく生きるために抱えるニーズを明らかにすることを目的に、質問紙調査を実施した。35名の対象候補者に質問紙を郵送し、17名から回答が得られた(回収率48.6%)。再発乳がん患者が抱えるニーズは、再発・転移を早く見つける方法について知りたい、身体に不調や大きな変化があった時の対処方法について知りたい、治療の後遺症や副作用とその予防・対処方法について知りたい、ホルモン療法について知りたい、化学療法について知りたい、治療法の選択方法について知りたい、術後の検査・治療の進め方について知りたい、病気や治療に対する不安がある、心身をリラックスさせる方法について知りたい、医師や看護師が主催する患者と家族が集まって短い講義を聞いたり気持ちを話し合うプログラム(サポートグループ)に参加したい、医師や看護師による講習会に参加したい、利用できるサービスや社会制度について知りたい、等であった。一方、変化した身体に合わせたよりよい性生活について知りたいというニーズや、家族や友人から必要な助けが得られないと思っている対象者は少なかった。以上の結果より、再発乳がん患者ががんと共に自分らしく生きるための看護援助を検討した。

Key Words : ニーズ, 再発乳がん

I. はじめに

乳がん患者は年々増加し、平成7年以降は日本女性の部位別がん罹患率第一位となっている。乳がん患者の増加に伴い、乳がん患者ががんと共に自分らしく生きるためのサポートのあり方が検討されてきている。しかし、再発乳がん患者の治療・療養環境は、初発乳がん患者に比べ極めて過酷であり、再発乳がん患者が必要とするニーズは、初発患者のものとは異なると考えられる。再発乳がん患者ががんと共に生きることをサポートするために、再発乳がん患者独自のニーズを明らかにすることが必要であると考えられる。

1 千葉大学看護学部成人看護学教育研究分野

2 千葉大学医学部附属病院

3 川上診療所

4 千葉県がんセンター

5 聖路加国際病院

1 Department of Adult Nursing, School of Nursing,
Chiba University

2 Chiba University Hospital

3 Kawakami Breast Thyroid Clinic

4 Chiba Cancer Center

5 St Luke's International Hospital

II. 研究目的

再発乳がん患者の、がんと共に自分らしく生きることに関するニーズを明らかにし、再発乳がん患者のニーズを満たす看護援助を検討する。

III. 研究方法

1. 質問紙の作成

国内外の文献検討^{1)~8)}および、乳がん患者の診療・看護に携わっている医師・看護師による検討をもとに、再発乳がん患者のがんと共に自分らしく生きることに関するニーズを明らかにするための質問紙を作成した。質問紙の構成は、病気・検査・治療に関する項目17、日常生活に関する項目8、自分の気持ちや人との関わりに関する項目17、サービスに関する項目9の計51項目で再発乳がん患者のニーズを問い、患者の属性に関する15項目を加え、合計66項目とした。ニーズに関する質問の回答形式は、51項目中44項目は「全く思わない」から「非常に思う」の5段階リッカートスケールを用い、サポートグループへの参加希望を問う1項目のみ3段階とし、6項目は自由記載とした。

2. 対象

対象は、大学病院の乳腺外科外来に通院中で、乳がんの病名と再発の事実を告げられ理解しており、心身の状態が質問紙を完成させることのできる状態であると乳腺外来担当医師および看護師により判断され、調査協力が得られた者とする。

3. 調査方法

対象候補者に、調査協力依頼文、質問用紙、返信用封筒を郵送により配布した。回収は対象候補者自身による投函とし、研究者からの督促は行わなかった。

4. 調査期間

平成15年7月～平成15年8月

5. 分析方法

5段階リッカートスケールで回答を求めた項目については、「非常に思う」「まあまあ思う」「思う」「あまり思わない」「全く思わない」を「思わない」とし、回答を「思う」「どちらとも言えない」「思わない」に3分して各々の度数と比率を算出した。それ以外の項目については、それぞれの度数と比率を算出した。

6. 倫理的配慮

調査協力依頼文内に、調査目的・方法、匿名性とプライバシーの厳守、本調査以外に使用しないこと、調査に協力しない場合でも診療や看護に不利な影響はないことを明記した。自由意志による参加を保障するために、回収は自由投函とし、督

促は行わなかった。

IV. 結果

1. 対象者の概要

35名の対象候補者に質問紙等を郵送し、17名から回答が得られた(回収率48.6%)。対象者17名の平均年齢は53.2±7.36歳(30～60歳代)、有職者5名(29%)、既婚者14名(82%)であった。現在身体に辛さや調子の悪さがある者は14名(82%)で、具体的には、しびれ、むくみ、腰や腕の痛み等であった。現在心配や悩みがある者は14名(82%)で、具体的には、治るかどうかが、今後の治療について、余命についてなどであった。

2. 病気・検査・治療に関するニーズ

病気・検査・治療に関する17項目のうち、自由記載項目を除いた15項目の結果を図1に示す。知りたいと「思う」という回答が多かったものは、「手術や手術以外の治療の後遺症や副作用と、その予防・対処方法」、「ホルモン療法」(各94%)、「抗がん剤治療」(88%)、などであった。自由記載では、最新の治療について知りたいなどの意見があった。

3. 日常生活に関するニーズ

日常生活に関する8項目のうち、自由記載項目を除いた7項目の結果を図2に示す。知りたいと「思う」という回答が多かったものは、「再発・転移の早期発見方法」、「身体に不調や大きな変化があった時の対処方法」(各100%)、「手術後の日常生活のよりよい送り方」(70%)、「よりよい食事のとり方」(64%)、などであった。自由記載では、治療費が高額になることや、温泉に行きにくいなどの意見があった。

4. 自分の気持ちや人との関わりに関するニーズ

自分の気持ちや人との関わりに関する、自由記載項目を除いた16項目のうち、「思う」の回答が多かった10項目を図3に、「思わない」の回答が多かった6項目を図4に示す。「思う」の回答が多かったものは、「病気や治療に対する不安がある」(76%)、「心身をリラックスさせる方法を知りたい」、「主治医と上手く話をする方法を知りたい」、「病気を機に自分の人生を振り返り、生きる意味や目的について考えたい」(各70%)、などであった。一方、「思わない」の回答が多かったものは、「変化した身体に合わせたよりよい性生活について知りたい」(76%)、「外見の変化を夫またはパートナーが受け入れていないと感じる」(70%)、などであった。自由記載では、健康な人との距離を感じる、愚痴を言えない自分の立場

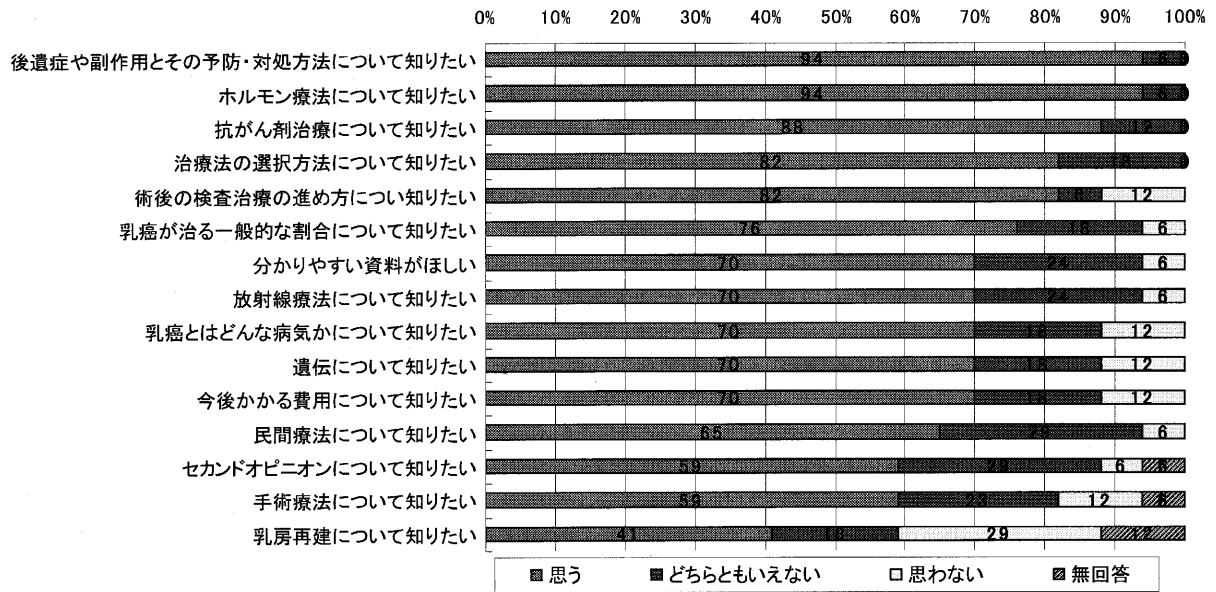


図1 病気・検査・治療に関するニーズ

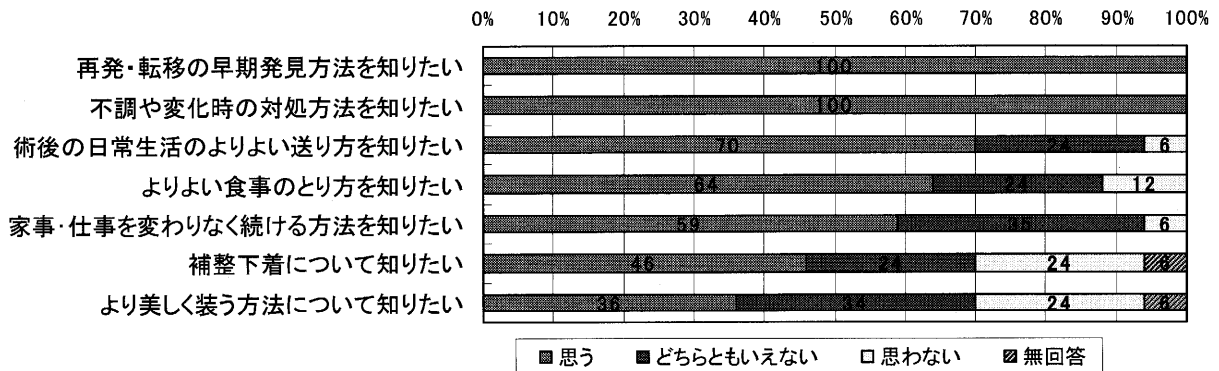


図2 日常生活に関するニーズ

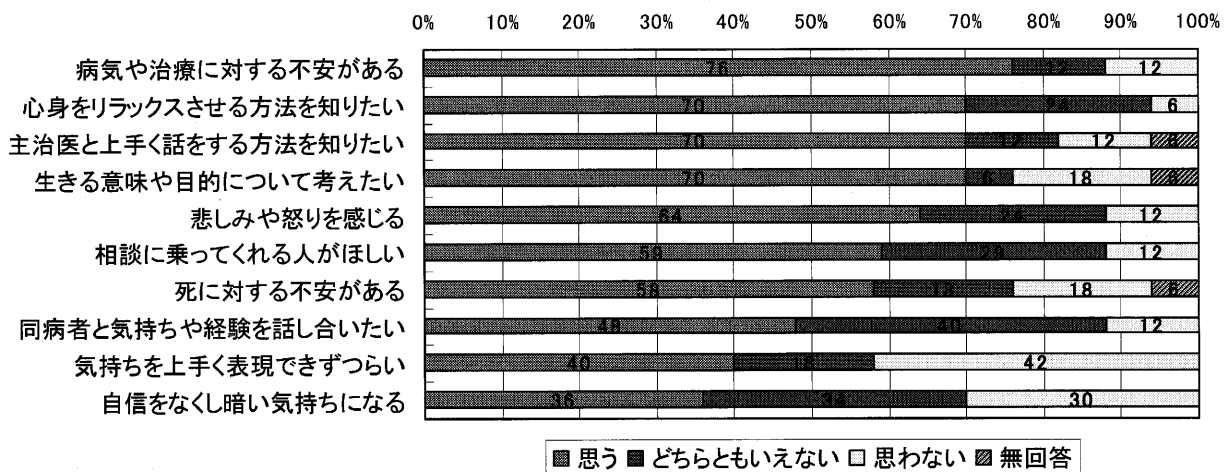


図3 自分の気持ちや人との関わりに関するニーズの高い項目

にストレスを感じるなどの意見があった。

5. サービスに関するニーズ

サービスに関する、自由記載項目を除いた7項目のうち、6項目の結果を図5に、サポートグループに関する項目の結果を図6に示す。「思う」

の回答が多かったものは、「医師や看護師が主催する講習会に参加したい」(82%)、「利用できるサービスや社会制度を知りたい」(76%)、「外来の相談室などで個別に相談に乗って欲しい」(70%)、などであった。自由記載では、心配な

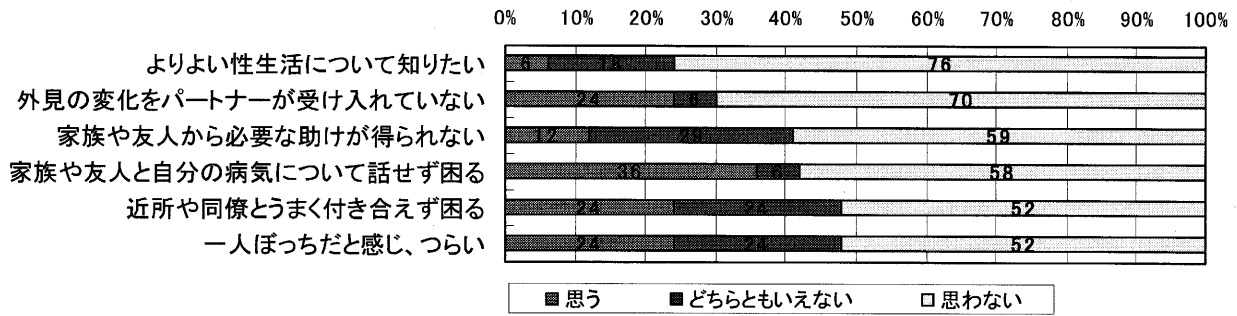


図4 自分の気持ちや人との関わりに関するニーズの低い項目

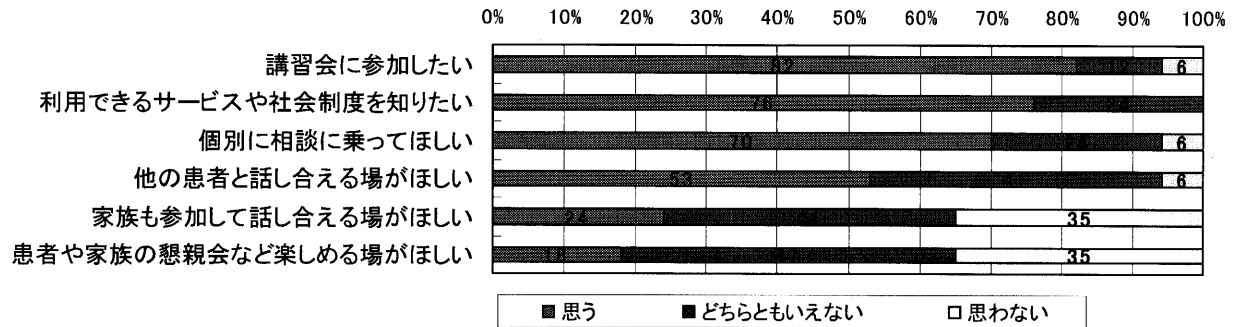


図5 サービスに関するニーズ

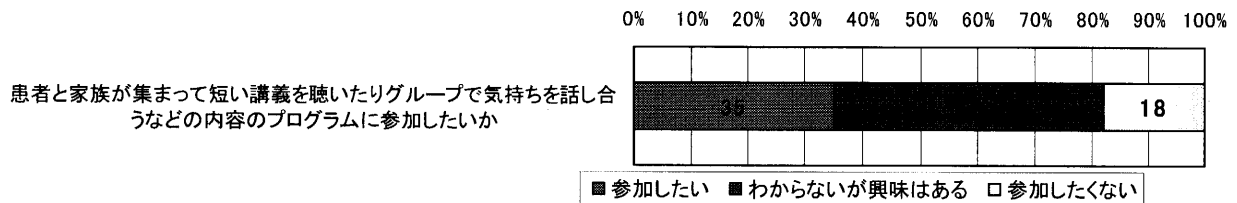


図6 サポートグループに関するニーズ

時は医師と電話で話したい、緩和ケア病棟の数が増えてほしいなどの意見があった。また、「患者と家族が集まって、短い講義を聴いたりグループで気持ちを話し合うなどの内容のプログラムがあれば参加したいか」という質問に対し、「参加したい」もしくは「分からないが興味はある」と回答した者は、あわせて82%であった。

V. 考 察

本研究結果をもとに、再発乳がん患者の、がんと共に自分らしく生きることに関するニーズと、ニーズ充足に向けた看護援助について考察する。

1. 再発乳がん患者が抱く再発・転移の脅威

本研究の対象者全員が「再発・転移の早期発見方法」を知りたいと思っていることが明らかになった。これは、再発の事実が、後悔と無念さおよび次の再発への不安を引き起こしているものと考えられる。さらに、「ホルモン療法」や「放射線療法」、「治療の選択方法」など、治療法そのもの

の知識に対するニーズも高かった。これらの結果は、がんの治癒あるいはがんと共存を目指して治療にかけるといふ、再発乳がん患者の切迫した状況を推測させるものである。再発乳がん患者は、自らの生命の危機を見据えながらも、これからはがんと共に生きていきたいという強い願いを抱いていると考えられる。

2. 再発乳がん患者の日常生活における対処

「身体の不調や変化時の対処方法」、「後遺症や副作用とその予防・対処方法」に対するニーズが非常に高かった。これはいずれも、患者が自己の身体の不調や変化に対処するための方略である。即ち、再発乳がん患者は日々の生活の中で自己の身体の不調や変化に対処する必要に迫られるか、あるいは必要性を感じる出来事に直面し、対処するための具体的な情報を求めているものと言える。また、補整下着やより美しく装う方法について知りたいと答えた対象者は4～5割に上った。手術後時を経ても補整に対するニーズがあるのは、周

手術期の援助が不足しているか、あるいは日常生活を送る中で新たな困難に遭遇しているものと考えられる。これらのニーズは、再発乳がん患者の、女性として生きるという非常に繊細で重要な問題を抱えている現状を表しているものと考えられる。大堀ら⁹⁾は、再発乳がん患者は、痛みなどの原因に自分なりに対処し、家庭生活を営むことによって、自己を「普通に生活できている」と捉えられるようになることを明らかにしている。再発乳がん患者が、日常生活のあらゆる場面において自分なりの対処ができるという自信を持つことは、がんと共に自分らしく生きているという実感につながると考えられる。

3. 過酷な心理状態と周囲からの支援

「病気や治療に対する不安」、「がんにかかったことへの悲しみや怒り」、「死に対する不安」を持つ対象者が6～8割認められ、再発乳がん患者が心理的に過酷な状況におかれていることが推測される。また、「家族や友人からの助け」や「家族や友人と病気について話すこと」、「近所や同僚との付き合い」にあまり困難を感じていない対象者が5～6割認められた一方で、同じ項目に対して、1～4割の対象者は強いニーズを持っていた。これらのことから、心理的に過酷な状況にある再発乳がん患者に対する周囲からの支援は必ずしも十分ではないと言える。「心身をリラックスさせる方法」や「主治医と上手く話す方法」を知りたいという対象者が多いことから、心理面の困難さにも自分なりの対処方法を持ち、自分の気持ちと上手く付き合っていきたいという対象者の思いが推測される。

4. 再発乳がん患者が求めるサポートの形

本研究の対象者が求めるサポートの形は、「講習会」、「個別相談」、「他の患者と話し合う」の順であり、サポートグループには8割が参加あるいは興味のある意思を示した。治療法や対処法などに関する情報のニーズが高く、過酷な心理状態にある再発乳がん患者には、十分な情報提供を基に不安を解消する働きかけが必須であると言える。情報獲得に関する強いニーズを満たすと同時に、患者同士が話し合っただけで不安や悲しみ、怒りを和らげることを目的とするサポートグループは、再発乳がん患者にとって有用なサポートの一つになると考えられる。講習会や個別相談と共に、再発乳がん患者が選択し利用できるサポート源の一つとして、サポートグループを開催・充実させる必要がある

と考える。

本研究の対象者35名は同一の大学病院に通院する患者であり、対象者が示したニーズは、その施設の医療サービスの現状を反映している可能性がある。さらに対象者数も少ないため、今後は対象を増やし、普遍性を高めていく必要があると考えられる。

(本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)の助成を受けた研究の一部である。)

文 献

- 1) 忽滑谷和孝：乳がん患者の心理における長期的追跡調査，慈恵医大誌，111(2)，165-182，1996.
- 2) 二渡玉恵，新井治子他：乳がん手術患者のQuality of Lifeの実態と関連要因，看護技術，45(1)，103-111，1999.
- 3) 井山壽美子，平松喜美子他：乳がんの手術を受けた患者のQOL向上に対する看護の役割，鳥取大学医療技術短期大学部紀要，27，1-9，1998.
- 4) Rees C.E., Bath P.A.: The information needs and source preferences of women with breast cancer and their family members: a review of the literature published between 1988 and 1998, *Journal of Advanced Nursing*, 31 (4), 833-841, 2000.
- 5) Wang X., et al: Major concerns and needs of breast cancer patients, *Cancer Nursing*, 22 (2), 157-163, 1999.
- 6) Cawley M., et al: Informational and psychosocial needs of women choosing conservative surgery/primary radiation for early stage breast cancer, *Cancer Nursing*, 13 (2), 90-94, 1990.
- 7) 川畑貴美子：乳がん手術患者のQOLの変化と要因に関する研究（第1報）—看護介入の視点から—，臨床看護，26(9)，1451-1459，2000.
- 8) 川畑貴美子：乳がん手術患者のQOLの変化と要因に関する研究（第2報），臨床看護，27(2)，227-283，2001.
- 9) 大堀洋子，佐藤紀子：乳がん再発患者の生活の質（QOL）に関する研究—積極的に生活を整えている3名によって語られた内容から—，日本がん看護学会誌，17(1)，35-41，2003.